

(パネルディスカッション) これからの協力のあり方、 日・タイ共創パートナーシップの具体化について

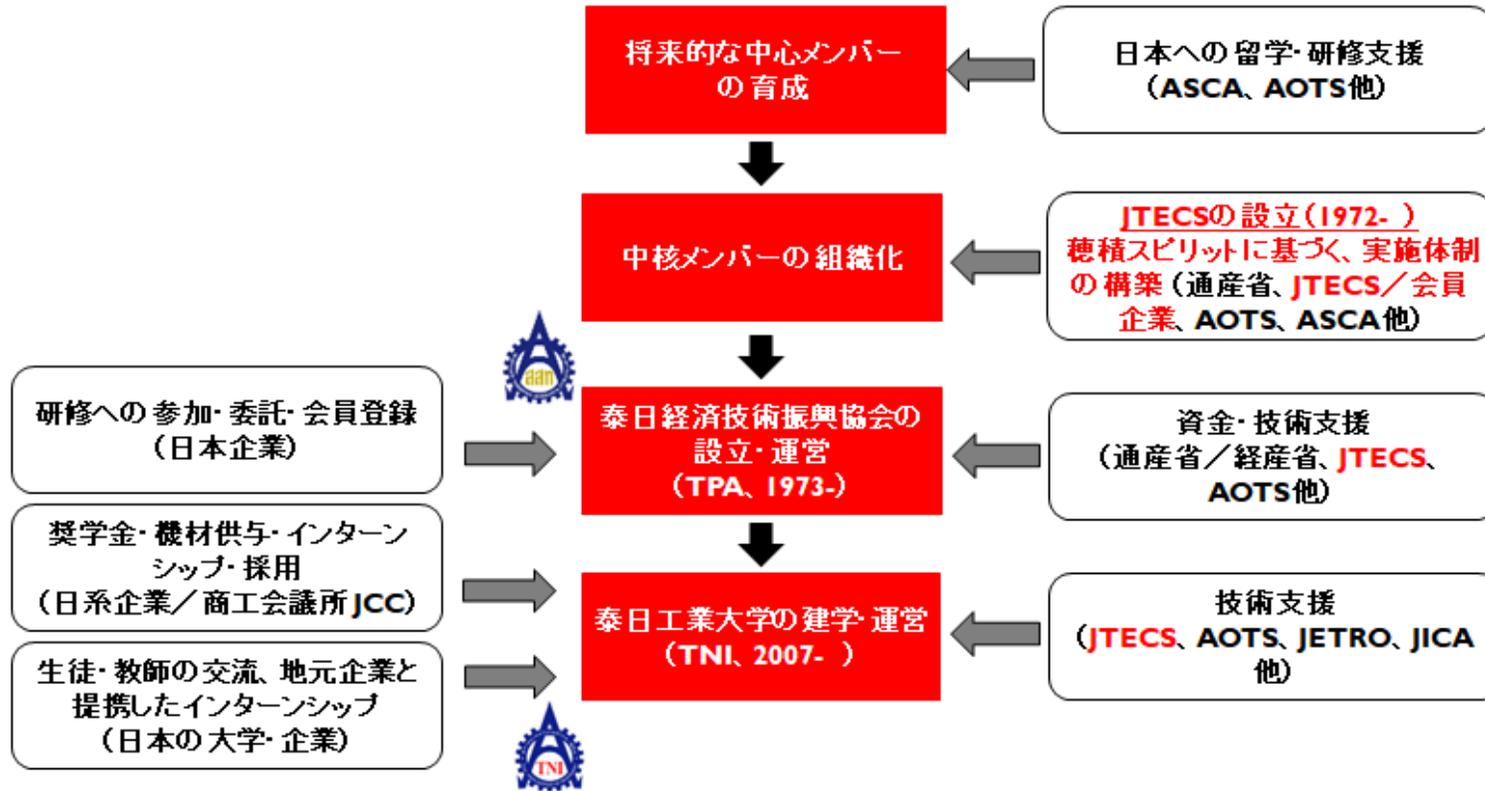
登壇者

- ▶ パヌワット・トリヤンクルスリ 様 (タイ王国工業省甘蔗・砂糖委員会事務局長)
- ▶ 飯島 オーラタイ 様 (タイ投資委員会(BOI)東京事務所一等書記官)
- ▶ 助川 成也 様 (国土舘大学教授、泰日工業大学(TNI)客員教授)
- ▶ 桑田 始 様 (日・タイ経済協力協会(JTECS)理事長)
- ▶ 大野 泉 (モデレータ、政策研究大学院大学教授)

問題意識

- ▶ 設立50周年をへて、日・タイ経済協力協会 (JTECS) にとって、2023年は新たな時代のスタート年。また今年は、JTECSの長年のパートナーである、泰日経済技術振興協会 (TPA) の50周年、泰日工業大学 (TNI) の15周年。
- ▶ **「JTECS-TPA-TNI モデル」**は日本とタイの50年に及ぶ産業人材協力の「成功物語」。そのエッセンスは、**①人と人の絆、②両国の産業界の実需にもとづく実践的な人材育成、③未来志向による若手人材の育成**、にある。
- ▶ しかし、近年は日・タイ関係をとりにくく環境は大きく変化(タイにおける日本のプレゼンス縮小、中国や韓国の躍進、世界的にDXやGXの重要性の高まり、少子高齢化と人材不足など)。
- ▶ 新しい時代において日本とタイがともに発展するために、両国はどのような協力関係を築いていけばよいか？ その際、「JTECS-TPA-TNIモデル」をどのように継承・革新・発展させていけばよいか？

人と人の絆、産業ニーズ、未来志向を重視した人材協力 (JTECS-TPA-TNIモデル)



(注) AOTS: 海外産業人材育成協会
 ASCA: アジア学生文化協会
 JETRO: 日本貿易振興機構
 JICA: 国際協力機構

ソンマーイ・フントラクーン氏
 TPA設立責任者
 後の財務大臣



穂積 五一氏
 JTECS初代理事長



- ▶ 民間主導の経済協力の先駆的事例
- ▶ タイ側の強い主体性、イコールパートナーシップ(穂積スピリット)
- ▶ 技術を中心とする教育協力(自立のための援助)
- ▶ Social EnterpriseとしてのTPA
- ▶ 産官学ネットワーク、多層的なパートナーシップ構築(Win-Win関係)
 - ▶ タイ産業界、在タイの日系企業
 - ▶ タイ政府、日本政府・支援機関
 - ▶ 日本国内の大学・企業

ディスカッションのテーマ

1. これまで日・タイ経済関係を支えてきた基盤・エコシステムは何か。今、この基盤にどのような変化がおきているか。
2. これからの日・タイ関係の持続的な発展のために、日本は何を維持し、何を変えるべきか。
3. 日・タイ共創のための具体的なアクションプラン(提言)をお聞かせください。